

しょうせつ／冬の気配が進むが、まだ本格的な寒さではない。小春日和の日もあるが、初雪が見られるころでもある。雪が降り始めるが、まだ積もるほど降らないことから小雪といわれた。

らしく、 粹なくらし

CLOSE UP

広島の魅力、 再発見



CLOSE UP 01

特定非営利法人湯来観光地域づくり公社
湯来町の恵まれた自然を五感で感じる、
さまざまな体験を提供



CLOSE UP 02

特定非営利活動法人まちづくりコミュニティデザイン研究所
広島港から発信する産直市場
「ひろしまみなとマルシェ」



CLOSE UP 03

特定非営利法人広島市観光アシスタント協会
歩くからこそ発見するまちの魅力を
案内し発信する

連載

- ▶らしくレポート “広島のコんなところにコんなものが”ガイドブックに載っていない広島の魅力を!!
- ▶らしくコラム・地図の力を借りて身近なまちを再発見 ▶ようこそ!公民館へ～佐伯区内公民館～
- ▶人材バンク 名人 宝人 達人 ▶Hmi助成支援団体のご紹介 ▶情報の森 ▶プラザ通信



湯来町の恵まれた自然を五感で感じる、
さまざまな体験を提供

「奥湯来シャワークライミング」の様子

CLOSE UP 広島の魅力、再発見

コロナ禍で国内旅行や海外旅行に、行きにくい時期もありました。しかし、地元広島で楽しめる場所もたくさんあります。そんな地域の魅力を発信し活動する団体を紹介します。コロナ終息後も、広島の新たな魅力を再発見しに行ってみてはいかがでしょうか。

特定非営利法人湯来観光地域づくり公社

<https://e-yuki.net>

広島市内にありながら 温泉と豊かな自然環境に恵まれた場所

広島市中心部から車で1時間あまりの山間の町、佐伯区湯来町。広島市唯一の恵まれた自然資源を生かし、観光振興と地域振興に関する活動を行い、地域活性化を図っているのが平成20年に発足した「NPO法人湯来観光地域づくり公社」です。

現在、理事長の佐藤亮太さんほか12人のスタッフで運営。活動の柱となっているのが、湯来ロッジに隣接する「広島市湯来交



▲ 理事長の佐藤亮太さん

流体験センター」の指定管理業務、そして湯来町の大自然を活かした体験型プログラム「アドベンチャーツーリズム」の開発・運営です。

「体験型プログラムを楽しむためにやって来る人のほとんどが、広島市在住です。昨年新型コロナウイルス感染症拡大以降、夏場に来る人は明らかに増えました。

遠出しにくい中、身近な場所で、開放的なアウトドアを楽しみたい人が増えているのではないのでしょうか」と佐藤さん。佐藤さんは、平成23年に発生した東日本大震災の際に、福島県から広島県に移住。その後、知人の紹介で平成26年に湯来町に移り住み、同団体に関わり始め平成30年に理事長に就任しました。

湯来町は、平成20年3月、3,071世帯7,309人*の住民が、令和3年3月には2,944世帯5,503人*に減少しており、過疎化も課題となっていました。（※広島市住民基本台帳調べ）

「湯来町は、もともと温泉街があり広島の奥座敷と呼ばれて親しまれていました。しかし、昨今のレジャーの多様化もあり、観光の柱だった温泉街も、最盛期には13軒あった温泉宿が今では2軒までに減少。外部の視点から見



▲ 今秋からスタートした「E-MTBツアー」



▲ 稲刈り体験の様子

て、どうすれば湯来町が活性化するのか、若い人の意見が欲しいと言われて、移り住んだ直後から関わるようになりました。

力を入れているアドベンチャーツーリズムは、どこにでもあるような自然体験プログラムではなく、湯来町ならではの、参加者が楽しさだけでなく、人生において何か気づける、人生感が変わるようなプログラムを作っていきたいと考え「奥湯来シャワークライミング」や「瀬戸内一望トレッキング」などを実施しています。アドベンチャーツーリズムや、農業・林業・酪農業を体験するプログラムに参加した人の中からは、子どもが参加した後から別人のように積極的になった、と言う声も届いています。そういった声を大切に、もともと湯来町の住民が楽しんでいたレジャーをブラッシュアップしたり、全国で行われているプログラムを参考にし、湯来バージョンに変えて取り入れているそうです。

可能性を広げる積極的な活動 観光客と地域住民の共存にも取り組む

他にも、温泉街の再生を目指して露天風呂を作ったり、令和3年7月にはイタリアンバルをオープン。それらを包括的にPRすることのできる旅行業免許を取得。さらには、アウトドアメーカーと一緒に、企業研修プログラムなどの創出にも取り組んでいます。このような積極的な地域活性化のさまざまな取り組みは成果をあげ、旅行者からの問い合わせも増えているそうです。

新型コロナウイルス感染症拡大が終息した後も、わざわざ遠い場所に行くのではなく、身近な湯来町に行けばさまざまな体験を楽しむことができます。今後、ニーズが高まって質を下げず、さまざまなプログラムを提供したいと考えているそうです。また観光客が増え、地域住民に迷惑がかからないよう、同団体が潤滑油となり、さらに可能性を広げていきたいと活動しています。

「日頃の生活で得ることが出来ない感覚を磨ける、五感で感じる場所です。自然と向き合って暮らしている人も多く、そこで一緒に体験することで、新しい自分を発見して欲しいですね」と佐藤さん。

世界中から人が集まり、湯来町が人生にとって大切な何かが見つかる場所になることを目指す皆さんの活動に、地域にある自然資源の大きな可能性を感じました。



▲ 再生したイタリアンバル

らしく、粋なくらし

contents

Vol.61
小雪号
2021.11

- 特集**
- 01 広島の魅力、再発見**
- ▶ 特定非営利法人湯来観光地域づくり公社
 - ▶ 特定非営利活動法人まちづくりコミュニティデザイン研究所
 - ▶ 特定非営利法人広島市観光アシスタント協会
- 05 らしくレポート ひろ記者が行く**
- ▶ “広島のコんなところにコんなものが”ガイドブックに載っていない広島の魅力を!!
- らしくコラム**
- ▶ 広島大学大学院 先進理工系科学研究科 建築学プログラム 都市・建築計画学研究室 田中 貴宏 教授
- 06 ようこそ! 公民館へ**
- ▶ 佐伯区内公民館
- 07 人材バンク 名人 宝人 達人**
- ▶ 色彩心理セラピスト まつだ 晴美さん
 - ▶ 歩き方改善・体や心のセルフケア 渡邊 政宏さん
- 09 HmI助成支援団体のご紹介**
- ▶ みんなの家・House for All
 - ▶ ピアサポート子育て相談センター
 - ▶ 一般社団法人100年後の広島を創ろう委員会
- 11 情報の森**
- 15 プラザ通信**

広島港から発信する産直市場「ひろしまみなとマルシェ」

特定非営利活動法人まちづくりコミュニティデザイン研究所

<https://www.hm-marche.net/>

青空の下の日曜市場は生産者と消費者をつなぐコミュニティ

「NPO法人まちづくりコミュニティデザイン研究所」は、広島県の魅力を発信し、まちづくりの推進や経済の活性化を目的に平成23年に設立しました。

設立当初は広島県の観光スポットで物産館の運営やイベントを手掛けていましたが、現在は運営形態を変更し、毎月第1・3日曜日に開催される「ひろしまみなとマルシェ」を中心に、生産者から届く新鮮な産直野菜を消費者に届けています。

運営は理事長の諏訪修三さんと、理事の平井啓子さん。生産者と消費者がふれあ対話型の販売に魅力を感じ、「広島にもマルシェを!」と立ち上げたのは9年前。その当時、関東圏を中心に広がりを見せつつあった「マルシェジャポン」への加盟から「ひろしまみなとマルシェ」をスタートしました。フランス語で市場を意味するマルシェ。「ひろしまみなとマルシェ」は、自分の作物を愛し誇れる生産者が、それを食べる消費者一人ひとりに直接販売する住民参加型のマルシェを目指し、おだやかな瀬戸内海を望む広島港の広場で開催しています。

無農薬の農作物など、安心安全なものを確実に消費者に届けるため、広島県の200軒を超える生産者に直接連絡をとり、出店の依頼をする地道な作業から始まったそうです。「ひろしまみなとマルシェ」開催以来、運営側の思いに賛同し出店した生産者は延べ300軒を超えたといえます。

平井さんは「スタートしたばかりのころは試行錯誤の連続でした。出店に関してはディスプレイなどにもこだわり、おしゃれな売場を

目指したり。でも、来場されたお客様を見ていて、重要なのはそこじゃないってことに気づきました。もっと身近で地域密着型の、ここだけのマルシェにしようと考え方が変わったんです」と振り返ります。誰もが気楽に足を運べ、笑顔の絶えない空間。それが「ひろしまみなとマルシェ」の理想的な姿となっていったそうです。



▲ 理事の平井啓子さん (トマト農家自家製のビュレを手に)

「美味しい」と「楽しい」が溢れる場所

農村活性化コーディネーターと広告代理店経験のある理事長の諏訪さんと、広島県6次産業化サポートセンターでの経験を惜しみなく注ぎ込む平井さんが開催するマルシェは話題となり、なかでも冬の風物詩「かきマルシェ」には2,000人を超える来場者で盛り上がった実績を誇ります。また、活動に着目した広島県内外の大学生が見学に訪れているようで「まちづくりに興味をもってくれることは大変嬉しいこと。ここから地域の活性化に繋がれば」と願ってやみません。

2人は「マルシェってコミュニケーションの原点だと思います。野菜を販売するだけでなく、人と人とのふれあいがある。そこに生まれる笑顔は最高なんです」と口を揃えます。お気に入りの生産者が作った野菜を心待ちにしていたり、調理方法をレクチャーしてもらったりと、対面販売でなければ味わえない楽しさがマルシェの魅力だと言います。新型コロナウイルス感染症拡大のため、やむなく中止していた時期もありましたが、地域住民の「美味しい」と言う声、楽しそうな笑顔のためにも、感染対策を徹底して継続していきたいそうです。

今後は開催日を増やし、「晴れの日使いではなく、日常のお買い物スペースとして活用してもらえたら」と、地域密着型マルシェのさらなる活性化を目指す、強い意欲に満ち溢れていました。



▲ 「ひろしまみなとマルシェ」の様子



▲ 新鮮な野菜が並ぶ「ひろしまみなとマルシェ」

歩くからこそ発見するまちの魅力を案内し発信する

特定非営利法人広島市観光アシスタント協会

<http://www.hiroshima.guide.gr.jp/>

広島県の魅力を再発見しウォーキングコースに

広島市及び近郊の史跡や名勝等の観光案内のボランティア活動を行っているのが「NPO法人広島市観光アシスタント協会」です。

もともとは、平成14年5月に、広島市まちづくり市民交流プラザが開館する際に、オープニングイベントとして「手弁当でイベント」とネーミングされた複数のイベントが開催され、その一環として被爆建物めぐりを行うことが決まり、ガイドを代表の片岡政之さんが引き受けたのが、活動を始めるきっかけになったそうです。

「当時、広島市が将来のボランティア活動に携わる人を養成する講座「未来大学」を開講。その講座の卒業生が主体となって「手弁当でイベント」の運営に携わり、私も観光ボランティアガイドをやりたいと講座を受講していたので、ガイドを引き受けました」と片岡さん。

イベント開催後、参加者のひとり広島市の公民館の職員から、公民館行事として被爆建物めぐりを開催して欲しいとリクエストがあり、片岡さんは仲間を増やし、新たなコースも設定してウォーキングイベントを開催。好評を得たことから、平成15年からは毎月第3土曜日(8月のみ第1土曜日)に定期的に始めました。その後「ひろしま遊歩100選」とネーミングされ、広島市内及び近郊の中から「癒しとゆとりのまち歩きを楽しむ」をテーマに、斬新かつユニークなコースを発見・開拓しコースを作成。100のまち歩きコースを目指し、現在まで、72コースできました。会員は60代から、最高齢は片岡さん自身の83歳まで6人。それぞれが得意なコースでガイドを務めており、中には英語が喋れる人もいます。令和2年には、「遊歩ウォーキング」とネーミングを変えて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でさまざまな行事が中止・延期になる中でも、万全の感染予防対策を取り、イベントを続けています。コースは、集合場所となるバスセンターやJRの各駅など市内中心部から1時間圏内の場所を、ガイドの説明を聞きながら1回あたり平均15人前後、人気



▲ 遊歩ウォーキングの様子(西国街道矢賀一里塚跡)

コースになると30人前後の参加者が、ゆっくりと歩いて楽しんでいます。「20年近くガイドする中で感じるのは、広島には山、海、川などの自然も豊かで、歩くか

らこそ気がつく魅力がまちの至る所にあります。例えば、設定したコースの中には国宝に指定された建物もあり、全国的に見てもその数は有数ではないでしょうか。広島以外から来た人には、メジャーな観光地を見て楽しんでもらえばいいし、広島に住んでいる人は改めて自分たちのまちの魅力を再発見して欲しいですね」と片岡さん。



▲ 代表の片岡政之さん

目標は100のウォーキングコースと100歳までガイドすること

また「地元ガイドとまち歩き」と題し、毎週日曜日にJR広島駅を出発し、駅周辺の1時間コースか、2つのモデルコース「平和の散歩道コース」「歴史と文化探訪コース」(各5時間)を参加者が選べるイベントも開催。さらには、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から中断する時期があったものの、不定期でJRを利用し県外のまち歩きを行う「駅からウォーク」も行っています。

「遊歩ウォーキングの参加者は、大半は60歳以上の人たちです。同年代の参加者と楽しく会話しながら歩くことで、体調管理にもつながっています。私たち会員も、ガイドを務めるにあたって勉強しないと出来ないこともあり、それがやりがいであり、健康を維持する秘訣です。私たちがやってきた事を引き継いでくれる人材も探していけないといけません。私は100歳までガイドをやりたいですね」と片岡さん。

長年、広島県の魅力を探し、多くの人に伝えることをやりがいに活動している皆さんは、元気な高齢者の手本のような存在で、とても力強く感じました。



▲ ひろしま遊歩100選の様子(平成15年8月)



▲ ひろしま遊歩100選の様子(縮景園)



▲ ひろしま遊歩100選の様子(江波地区)